

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

放射線技術科学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:放射線技術科学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      コロナで臨床能力試験ができなかった。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      各授業で小テスト、中間試験、ノート提出などを行った。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      シラバスに適切な評価方法が記載されている。                      コロナ禍で全科目の確認試験となる国試模擬試験はできなかった。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学内実習において確認試験を行った。 GPA は個人指導に用いた。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ガイダンスや面談で指導した。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。 全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 下位学年の講義の中に国試を意識させる。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の意識調査を行う。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 FD の授業評価を参考に改善している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床実習先で本学教育に対する評価を活用している。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IRと連携を行っている。</p>

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・管理栄養学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長、管理栄養学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>ルーブリックの活用は一部で開始しているが、今後さらに拡充していく予定でいる。技能や態度の向上を図るための開け細かな指導も進めている。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各科目とも両形式の学修評価方法を積極的に導入している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生は SUMSPO 掲示板で GPA 分布図を参照して、自分の学修到達度を把握できるようになっている。しかし管理栄養学専門科目について個別面談等での通知をもとに考えさせており、学生にわかりやすいチャンネルの整理が必要である。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPA を学生指導の重要な指標としており、GPA 2.0 未満の不振学生に対しては適宜指導をきめ細かく実施している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          個別面談を通じて学生の自発的な認識と改善を促す容姿しており、ほぼ達成できた。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          2020 年度は新卒者の国家試験合格率が全国平均を下回った。また、途中の進路変更学生が多かったため、「入学時資格取得希望者」の実数は確認できないが、これについても改善の必要性があった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          教育効果の向上を目指した努力は様々なアプローチから進めており、学生の意識調査データや FD の機会も活用して教員の改善を進めている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の授業評価や FD を通じて、個々の教員は授業内容の改善を行っている。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨地実習等の機会を活用して、就職先機関における本学の評価や課題を積極的に活用して教育の改善に努めている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> IR 室から提供される情報を積極的に活用して教育の改善を図ってきた。</p>
--	---

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・臨床検査学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長・臨床検査学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>演習科目でのプレゼンテーションの評価や実習科目における実技試験や実習への取り組み態度の評価は、ほとんどの対象授業で行っている。本年度は、OSCEにおいて挨拶、手洗い、心電図に加え、ABO 式血液型検査も実施した。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>定期試験の成績向上のために、4年次の総合演習ⅠおよびⅡでは模擬試を数回組み入れその結果を分析し各学生の弱点を見出し、1～3年次において臨床化学、(臨床)微生物学などの多くの講義で復習小テストを行い、学修成果をモニタリングすると共に、アウトプットさせる事により知識の整理と定着の促進を図った。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p>

	<p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床微生物学など一部の授業では、最後の課題として「臨床検体をイメージした未知検体の同定」を行わせることにより、目標到達度を各自確認させた。また、生理機能検査学実習では、接遇、検査説明、検査実施、検査結果の解釈に至る一連のプロセスの相互の関連を学び、それぞれのスキル習得の程度を評価した。その後各プロセスを統合した総合的な能力について、特に心電図検査においてはOSCEで評価し、全員がOSCE合格に到達できるよう指導した。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPA2.0未満の学生は国家試験に殆ど合格しない事実を基に、2年次には学生要覧に従って、その他の学年では適時三者面談を実施し、学生・保護者・教員が三位一体となって、学習・生活指導を行った。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>再試験科目多い学生に対しては、担任が中心となり面談を行っているが、その時に成績表を基に学修行動・姿勢・特徴の振り返り・分析を行い、できるだけ具体的な指導を行った。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2020年度現役受験者合格率の全国平均は、例年よりやや高かったもののそれを優に上回る95%以上を保ち、入学者あたりの合格率は82%を超えた。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p>

	<p>OSCE において本年度は、挨拶、手洗い、心電図に加え、ABO 式血液型検査も行った。また、全学的な学修行動調査や意識調査結果も教育効果の評価に活用した。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全教員が毎回 FD に参加し、授業改善に努めている。また、学生の授業評価を基に自己評価を行った。また、国家試験後は、本専攻の学生の核問題の正答率から各担当教科の教育について振り返りを行った。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床実習先の技師長等をお呼びしての臨床実習前説明会や臨床実習報告会における技師長等の意見を参考に、臨床実習前事前指導の改善を行った。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>IR 推進室の分析報告を活用し、IR 委員が各学年の GPA の解析等を行い、目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行った。同時に、定期試験、模擬試験、国家試験の各問題の正答率を求め、それを基に各担当科目に関して本専攻の弱点を見出し、補強を行った。</p>
--	---



2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療法学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・理学療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      実習科目のルーブリック評価、OSCE は導入済み。学生の学修ポートフォリオ活用状況は確認中。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      全ての専門科目において複数回の評価を実施し、学生が自らに必要な学習内容を理解する環境を整備している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  各専門科目において、講義期間中に国家試験に準拠した課題を提示し、定期試験も、求められる内容を把握できるようにしている。基礎専門科目も含め、定期的な模試を実施、結果をフィードバックしている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。  GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  上記の内容は全て例年と同様、実施できた。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  毎年、担任による個人面談を通じ、現在の課題に対し、助言、指導を行い、必要に応じ、保護者も含めた 3 者面談を行い、成績不振者の改善を図っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。  本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  入学時の偏差値と国家試験合格率を見ると、明らかに全国的にも上位を継続できている。入学者数あたりの国家試験合格者数は 70%と、理学療法士養成校としては全国平均(約 60%)よりもやや高い。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  臨床実習施設決定に際し、ルーブリック、GPA、SUMS ポイントを勘案し、総合的な学生評価を行い活用している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>  学生の授業評価の講義内容へのフィードバック、自己評価を定期的に行っている。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学科の臨床実習指導者の多くが卒業生であり、教員の実習施設訪問に際して、貴重なコメントを度々受けている。その結果は学科会議を通じて共有され、学内教育に反映している。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科の LMS 担当者を中心に、成績不良者、中途退学者の特徴を精査し、学生指導に反映している。</p>
--	--

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・作業療法学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・作業療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>授業においてグループワーク、プレゼンテーションの機会を持たせ評価尺度を用いて評価を行なっている。学習への取り組みを評価するために臨床実習で教員、臨床実習指導者、学生の間で評価できる新たなシステムの導入を検討している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>小テストおよび国家試験を定期テストに3割導入して、評価を総括的にしている。また、定期テストにて認定されない時は、再試験の前に補修などを行い、水準に達するように指導している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最</p>

	<p>最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>カリキュラム構成が、臨床家として成熟するように段階的になっており、科目の目的や次への目標を確認しながら進めている。また、実習も見学、評価、総合となっており、段階付けているため自分の立ち位置が把握できるようになっている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPA の確認を担当レベル、教育質検討委員会で確認しながら学生への指導を行なっている。まだ、完成年度の達していないため国家試験の利用に GPA を使用するに至っていない。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生が主体的に取り組むように個人面談等で指導している。また、昨年度からゼミが始まり、自身で学習目標や課題を設定するように指導を行なっている。国家試験においてはノートの作成や国家試験問題への取り組みを自主的に行うように促している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>■評価不能</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>完成年度に至っていないため評価不能である。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全学が行なっている学習行動調査や意識調査を参考に行なっている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の自己評価や教員の自己評価を参考に教育課程の改善を行な</p>

	<p>っている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) ■評価不能 上記達成状況の具体的内容 完成年度になっていないため卒業生や学生の就職先からの情報は得られない。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) ■評価不能 上記達成状況の具体的内容 完成年度になっていないためデータは得られていない。</p>
--	--

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・医療福祉学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長・医療福祉学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義科目においては、ソーシャルワークにおける価値・知識・技術を問う専門試験において、客観的に学習成果を測定しその結果を評価することができた。また、社会福祉士に関する演習科目・実習科目および精神保健福祉士に関する演習科目・実習科目における評価についても適切な評価基準に照らして、各教員が学生の評価を行った。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義科目・演習科目ともに、講義の各回におけるミニテストや中間テスト、リアクションペーパーの実施・活用によって、学修成果の到達度を把握した上で、学生の習熟度を把握し、学修成果の充実を図る取り組みを行った。その結果、本専攻内においては概ね到達水準に達したものと評価を下した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにし</p>

	<p>ます。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>3年次生は相談援助実習や精神保健福祉援助実習をとおして、4年次生は医療ソーシャルワーク実習をとおして、ソーシャルワーカーとして目指すべき専門職の姿を理解するとともに、現時点における自らの状況(自分の立ち位置)を的確に確認することができたものと判断する。さらに、3、4年次生は前後期の国家試験対策において、全国統一模擬試験、学内模擬試験等の結果により、国家試験の合格ラインと学生自身の学力とを実感することができた。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>相談援助実習に関しては、2年後期の相談援助実習指導Ⅰから3年前期の相談援助実習指導Ⅱに推移する時点で習熟度テストを実施し、学外実習の可否について決定することとしている。なお、3年後期の精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、医療ソーシャルワーク実習指導についても相談援助実習と同様に実力試験を実施し、学外実習の可否を判断するものとしている。なお、実習の可否イコールGPAとの評価は、本人の隠れた能力や資質を見落としてしまう危険性を孕むことにもなりかねないため、実習の可否はGPAのみで判定することを極力避け、あくまで参考事項として評価を行うものとしている。そのためにも随時口頭試問を行うことによって専門職としての資質の確認を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。</p> <p>□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>実習指導や演習授業においては、とくに事前学習や事後学習の一つとしてレポート課題を出すとともに、頻回のグループワークを用いたプレゼンテーション授業を行うことをとおして主体的・積極的な学習への取り組みが行えるようになったと理解している。さらに、卒業研究においては、ゼミ担当教員から指導を受けることによって、学生自ら積極的に論文テーマの研究に取り組むとともに、計画的な論文作成を行うことができた。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および</p>



## 鈴鹿医療科学大学

大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

2020年度に卒業した学生は、入学者25名のうち、社会福祉士国家試験受験者21名、同合格者13名(入学者比52%、受験者人数比61.9%)、精神保健福祉士国家試験受験者3名、同合格者2名(入学者人数比8%、受験者人数比66.6%)の成績であった。

- ②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

国家試験受験までに、模擬試験を頻回実施し、その後習熟度・合格可能性に関する分析を専攻内で独自に行っている。その結果、おおよその合格可能性の評価は下すことができたが、2020年度に関しては、コロナウィルスの関係で対面での国試対策ができなかった点があり、専攻内で予測した結果と若干の誤差が生じた。

- ③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD注5活動)を不断に継続していきます。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

全教員が、学生の授業評価に対して真摯に検討を行い、次年度のシラバスに改善点を工夫した上で、講義の再構成を心がけている。教員の自己評価は教員毎に個別に行われ、その成果が授業や教育内容の改善に生かされているが、さらに創意工夫の余地がある。

- ④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

卒業生が本学教員を訪ねて来る機会が多く、また県内社会福祉・医療機関の職員が情報交換や就職の応募案内のため本学に来ることも多い。そこで得られた情報は学科会議・専攻会議等において教員間で情報共有が行われ、教育課程や内容の改善に適切に生かされている。しかし、在学生のインターンシップへの積極的な参加を促す課題は残っている。

- ⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

### 上記達成状況の具体的内容

大学IR推進委員会の本専攻にかかる報告会を実施し、その内容を教員間で情報共有を行い、その結果は教育課程や教育内容の改善に生かされている。

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・臨床心理学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長、臨床心理学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      定期試験だけでなく、レポート、小テスト、発表などにより総合的な評価を行っています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      小テスト、レポートなどを課すことによって知識の向上をはかり、最終的に定期試験により総括的に評価しています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      1, 2年生で基礎心理学を学び、3, 4年生で実践心理学を修得するカリ</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>キュラムを実践することにより、目標達成に至る自分の立ち位置を把握できるようにしています。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 2020年度は、GPAを大学院進学の基準として活用しました。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動 注4)を促します。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 小テストやレポートの指導などを通して、学生に学修行動の振り返りを促し、個別指導も必要に応じてしています。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国と同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 当専攻においては、国家試験・資格試験は大学院での課題となります。大学院生が入学して3年目になり、入学者あたりの合格者が上位となるよう、大学院における入試のあり方を検討し、改善させてきています。また模擬試験を実施しています。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 全学的な学修行動調査や意識調査を当専攻でも実施しています。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 教員それぞれが授業評価を改善に役立てています。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 卒業生の就職先機関との連携はまだ少ないので、今後増やしていきます。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>調査に協力し、その結果を教育課程の改善に反映させています。</p>
--	--

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

鍼灸サイエンス学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:鍼灸サイエンス学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      知識や思考力の評価方法は試験、技能や態度についてはプレゼンテーション・実技・実習などを観察し、適切な評価尺度を用いる評価方法を活用しています。評価尺度については、事前に説明し、その学習方法について個別に面談しています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      形成的評価については、国家試験および最終的総括評価(可否の判定)の2つを重点的に強化しています。国家試験は、学生の習熟度に合わせた実力テスト・模擬テストを底上げを目的として提供しています。総合評価は、必要な水準に達成できるまで、繰り返し実施しています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階におい</p>

	<p>て、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>実技・実習科目では、達成度に応じた段階的な教育と評価を行っています。達成状況に遅れのある学生には、個の習熟度に応じた評価を実施しています。講義科目は講義中の段階的評価は行っていませんが、面談によって目標達成への学生の立ち位置を把握しています。全科目において、定期試験後、成績不良者に対して再度、段階的かつ反復した学習と評価(トコトン教育)を行いながら、目標達成に向けて関わりを持つ指導を徹底しています。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>個別および三者面談時の指導において、進級・卒業・国家試験合格の目安として活用しています。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>成績不良の程度によって個別面談を増やし、学生の日常の取り組み状態を把握しながら、自己改善に結びつける活動を促しています。また教育支援者へも報告して、改善に結びつけるための協力をお願いしています。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2020年度入学者あたりの合格率：はり師 69%、きゅう師 75%であった。前年度の 68%上回ったが、学科としての目標を 75%に設定しており、はり師合格率が目標に達しなかった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>教育効果を高めるために、学科評価と全学的調査を含めて、評価指導しています。</p>

	<p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の授業評価に基づき、担当教員の教育改善を継続しています。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>客観的評価はないが、口答による主観的評価や意見を聴取して、教育課程の向上に生かしています。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>IRでの分析結果に基づき、国家試験対策や教育課程の改善に取り組んでいます。</p>
--	---

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

臨床工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:臨床工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>知識と思考力の評価は定期試験とレポートで行い、一部の実習では、実技試験と口頭試問の評価にルーブリックを用いた。学生自らが行う学修ポートフォリオの活用は実施できていない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義中に小テストを実施し、重要なポイントと定期試験までに到達しなければならない水準を把握できるようにしている。4年次では、国家試験の模擬試験を頻回行い、問題毎の採点結果を配布して苦手分野の把握、国家試験合格までの到達度を把握できるようにしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階におい</p>



	<p>て、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>シラバスに講義の各回における到達目標が記載されており、授業終了時、または、科目終了時に「何ができるようになったか」が確認できるようになっている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの学修指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2年次後期の学修指導、4年次に国家試験対策でのクラス分けに GPA を活用している。3年前期学内実習中での確認試験の導入はできていない。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>後期実施する個別面談時に、各学年担任が前期の成績(GPA)をもとに学修指導を行っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>「入学者数あたりの合格者数」は学科内で共有され、この数字をもとに、次年度の学習指導方法の改善を行っている。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学修行動調査や意識調査の結果は学科内で共有され、技能や態度の教育効果の評価に活用されている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の授業評価を各教員が確認し、授業評価の結果をもとにシラバスに改善案を記載するなど、教育方法の改善を継続している。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 「本学の教育」を評価するためのアンケートは現在作成中であり、完成次第アンケートを実施し、評価の結果を集計分析し、教育過程の改善に生かす予定である。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> さまざまなデータを活用した教育方法の改善は常に行っており、今後は模擬試験の成績による国家試験対策のクラス分けに加えて、各学年のGPAを分析することで個々の学生にあった対策方法を模索していく。</p>
--	---

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医用情報工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医用情報工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>多数の授業科目で、実技、実習を実施しており、SUMS-PO を使用して、授業の出席状況、レポートの管理などを行い、個別指導している。しかし、評価尺度を用いた評価や学修ポートフォリオの活用は行われていない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>「形成的評価」として、毎授業でのレポートの提出を課すこと、国家試験・検定試験で模擬試験を実施し、学生自身が水準を理解するような工夫を行っている。</p> <p>「情報処理技術論Ⅳ」の授業中で、IT パスポート(国家試験)に合格するために小テストを実施しており、小テストを実施後、グループ学習により、理解不足の箇所を理解させる工夫、学習方法について意見交換を行わせている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにし</p>

	<p>ます。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生が「何ができるようになったか」を評価する方法は、特定の授業科目しか行われていない。そこで、今後、導入科目を増やすために、光学マークシートリーダー(OMR)を購入し、多くの授業で学生が水準を自己管理できるシステムの構築を検討している。</p> <p>入学時と進学時のガイダンスでは、国家試験、検定試験の説明と各方面に就職した場合のキャリアパスを説明している。しかし、一部の授業しか、国家試験と検定試験の対応について説明されておらず、カリキュラムマップを示しているが、国家試験と検定試験との連携について、十分に理解していない学生がいる。そのため、より理解しやすい図案化などを検討している。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPA を学生に理解させる努力をしており、毎学期毎の学生の個別指導と留年や退学を減少させる指導に活用している。しかし、学内実習、国家試験・検定試験、進級、卒業には利用していない。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生に主体的に学習に取り組む態度を育むためのPDCA活動は、一部の授業科目では授業中に行った小テストの後で、グループでの意見交換により自己の改善に結びつける、行っている。しかし、学科全体での組織的な導入は検討中である。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>留年や退学の減少に関して努力しており、国家試験・検定試験の合格者数と受験者数の把握を行っているが、他大学との比較は行っていない。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意</p>

	<p>識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 技能や態度への教育効果については、各科目で評価しており、全学で実施している「学生意識調査」を実施している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 学生の立場に立った授業や教育課程の改善については、全教員とも熱心に教育活動を行っており、履修申告のフォロー、授業出席率の確認を行っている。そして、欠席の多い学生、成績不振者に対しては、クラス担任(場合によっては学科長も同席)との個別面談を行い、手厚い個別指導を行っており、留年と退学を減らす努力を行っている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 新学科の設立に関して、高校生と就職先に本学科の教育に関する意見交換を行い、アンケート調査を行った。また今後のインターンシップを含む教育に関して医療機関、企業、自治体との意見交換を行い、新学科のカリキュラムを作成した。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 新学科のカリキュラムを構成する検討の中で、履修者数や単位取得者数などを調査し、外部の有識者の意見を聞きながら、新カリキュラムを決定した。 大学からのデータ収集に対して協力している。データに基づいた教育課程の改善は、新学科の授業科目を決定する場合に活用した。</p>
--	---

2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

薬学科	
<p>3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。</p>	
<p>責任者:教務・教育改革担当副学長                      分担者:薬学科長                      村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長)                      事務局:教務課</p>	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
<p>1. 学生単位の学修評価の方針</p>	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      ほぼ達成できていると考えている。コロナ禍での対応は計測課題である。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      特別教育への対応は十分に行われていたと考えている。特別教育のシステムについては継続的な協議・検討が必要。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生への情報のフィードバックも実施しながら進めており、概ね達成できていると考えているが、継続的に再考して改善していく必要がある。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生・保護者との面談や国試・CBT 対策委員会などでも GPA による評価を国試・CBT 合格予測に利用し、学修指導に使用している。より有用、かつより広く全学生に対する有効的な活用となるように継続的に検討していく。CBT や国家試験受験前の試験については学内教員による確認試験を導入しているが、さらに有用な内容にするために協議を進め、また鋭意努力していく。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          ガイダンスなど学習意欲を高め、自己研鑽を考えさせる機会となるプログラムを実施しているが、さらに充実させていく必要がある。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          昨年度のスレート合格率は大幅に向上し、一定の成果を上げることが出来たが、安定した結果が得られるように継続した検討が必要である。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          卒業生や各学年に対して継続的な調査を実施している。回収率などについて継続的な介入が必要である。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          FD 委員会や学生部委員会の努力によって、その機会を持つことが出来ているが、コロナ禍にあって十分に対応できていない部分もある。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 全学の理事会や評議員会などの報告を受け、また、実務実習を受けていただいている施設からの情報などを収集して、その対応にあたっている。対応としては継続改題である。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> IR委員会や国試・CBT対策委員会などで解析された情報を教員や学生(保護者)に還元して教育に利用している。より深く、ニーズの高い情報の集積を目的に協議・検討していく。</p>
--	--



2020 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

看護学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:看護学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2020 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      講義、演習、実習すべてにおいて、アクティラーニングを取り入れている。臨地実習では、ルーブリック評価を取り入れ、5-6人に1教員を配置し、細やかに指導している。ポートフォリオの充実を目指す</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。                      「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      すべての科目で、形成的評価、総括的評価を実施している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。                      全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          科目では、毎回や数回に1回の小テストなどの小刻みな評価を取り入れている。具体的に目標は明記し、学生に周知している。実習ではルーブリック評価を取り入れ、具体的な行動指針も示している。          さらに、演習や実習は少人数で構成し、特に実習では5-6人の学生に1教員が指導しており、きめ細やかな対応により何ができるかの具体的評価、出来ていないことをできるための指導を行っている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えてGPA 注3による評価を活用します。          GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPAが2以下の学生は、担当教員が保護者と学生の三者面談を実施し、アルバイト時間の調整を含み、保護者の協力を依頼している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動 注4)を促します。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          履修計画を基に担当教員と定期的な面接を実施している。少人数グループでの演習、5-6人に1教員が指導する臨地実習により、学生が主体的に自己を振り返る支援を行っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          定員以上の数の卒業生と合格率100%をこの2年間に到達している。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全学的な学修行動調査や意識調査により、夜間のアルバイトや夜型生活が学生の成績に影響していることから、1年次などの早期から学生の面談で、これらについて把握し、担当教員を中心に対応していつている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の授業評価と教員の自己評価は毎年実施しており、学生の評価を授業に取り入れたり、教員の自己研鑽のためのFDの定期開催を実施している。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 2019年度に実施したが、回収率が低かった。その後の実施はコロナ禍であり困難であった。 実習先に就職している卒業生が多く、実習調整会議や実習指導中での教育についての話があり、部分的に活かしている。しかしインフォーマルな形にとどまっている。卒業生については回収率、就職先の教育評価の実施の是非と方法を検討する。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 国試結果と1年次からの成績をIRと連携し分析している。</p>
--	--